

北新町線、萩の台線における評価結果の報告

1. はじめに

本資料では、平成 28 年 10 月から平成 29 年 9 月における、実証運行中の 2 路線（北新町線、萩の台線）の利用実績の評価を行うこととする。次章以降に、北新町線と萩の台線の利用実績の評価結果を示す。

2. 評価結果（H28.10～H29.9）

2.1 北新町線について（病院区間線を除いた評価）

- ・評価区間は当初運行区間の生駒駅北口・南口～奥薬師台とする。
- ・運賃が 150 円のと看、生駒市の負担率は 71.0%である。（表 2-1-1 参照）
- ・わずかに 70%を超えたが、利用者数が 1 日平均約 1 人程度増やすことで生駒市の負担率 70%を満たすこととなっている。
- ・平成 29 年 11 月～平成 30 年 3 月の期間は、以下の内容で運行を継続する。
 - ・運賃を 200 円に改定（生駒市の負担率は 71.0%であり、もう少しで 70%満たす割合となっている。平成 30 年 10 月より、運賃を一律 200 円に改定することとしており、運賃を 200 円として生駒市の負担率を試算した結果、70%を満たすことが期待される。そのため、平成 29 年 11 月～平成 30 年 3 月の実証運行期間では運賃の改定のみ行い、その他のサービス内容は変更しない。）

表2-1-1 北新町線の評価結果

現行の利用者数(150円)		平成28年10月～平成29年9月		
項目		数量	単位	計算式
運行距離(1日)	全体	51.3	km	①
	評価区間	24.4	km	②
	割合	47.6%		③=②÷①
運行費用	全体	6,183,375		④
	評価区間	2,941,020		⑤=④×③
利用者数 (H28.10～H29.9)	北新町線	7,751	人	⑥
	評価区間	6,226	人	⑦
	割合	80.3%		⑧=⑦÷⑥
運賃収入	北新町線	1,063,550	円	⑨
	評価区間	854,298	円	⑩=⑨×⑧
生駒市の負担率			71.0%	⑪=⑩÷⑤

【参考】試算のための諸量

(1) 運行距離 (1日当たり)

- ① 生駒駅北口～奥薬師台： 2.0 km／往復×1 往復=2.0 km
- ② 生駒駅南口～奥薬師台： 2.8 km／往復×8 往復=22.4 km
- ③ 生駒駅北口～生駒市役所： 0.5 km／片道×16 便=8.0 km
- ④ 生駒市役所～生駒市立病院： 1.4 km／片道×5 便=7.0 km
- ⑤ 生駒駅南口～セイセイビル (門前線)： 4.3 km／片道×1 便=4.3 km
- ⑥ 生駒駅南口～山崎新町 (門前線)： 3.8 km／片道×2 便=7.6 km

<合計> 51.3 km (評価区間は24.4km)

(2) 運行費用 (車両使用料を除く、平成28年10月～29年9月)

- ・6,183,375円 (生駒交通見積書より)

(3) 運賃収入 (平成28年10月～29年9月)

- ・奥薬師台～生駒駅北口～生駒市役所～生駒市立病院：1,063,550円
- ・奥薬師台～生駒駅南口：854,298円 (利用者数の比率で按分)

(4) 利用者数 (バス停の乗車人数)

- ① 生駒駅南口・北口 (北新町方面) ・三勝園～奥薬師台：6,226人
- ② 生駒駅北口・南口 (生駒市立病院方面) ・セイセイビル～生駒市立病院：1,525人

<合計> 7,751人

2.2 萩の台線について

- ・運賃が 150 円のと看、生駒市の負担率は 83.1%である。(表 2-2-1 参照)
- ・生駒市の負担率が 83.1%であるため、70%を満たす結果にはならなかつた。
- ・平成 29 年 11 月～平成 30 年 3 月の期間は、以下の内容で運行を継続する。
 - ・運賃を 200 円に改定
 - ・ダイヤの見直し (利用促進を目的)

表2-2-1 萩の台線の評価結果

	単位	萩の台線	備考
運行費用	円	6,183,300	①' 生駒交通見積書より
年間収入	円	1,046,815	②' 生駒交通見積書より
市の負担額	円	5,136,485	③' = ①' - ②'
生駒市の負担率	(%)	83.1	④' = ③' ÷ ①' × 100%

【参考】試算のための諸量

(1) 運行費用 (車両使用料を除く、平成 28 年 10 月～29 年 9 月)

・ 6,183,300 円 (生駒交通見積書より)

(2) 運賃収入 (平成 28 年 10 月～29 年 9 月)

・ 1,046,815 円

(3) 利用者数 (平成 28 年 10 月～29 年 9 月)

・ 7,173 人